２０２３・２・１９　　黄金井尚美　主任牧師

＜でも・・・おことばとおり＞

ルカ５：１～１１

シモン(葦)　→　後のペテロ(岩)
長年様々な経験を踏んで、プロの漁師としての
腕前が鍛えられていた。

ペテロたちがいつものように漁を終えて帰ってきた。
網を洗って仕事の後片づけをしていると、群衆達が
押し迫るようにしてイエス様の話を聞きにやって来た。

イエス様は語り終えられると、ペテロに話しかけた。
話が終わると、シモンに、「深みに漕ぎ出して、
網をおろして魚をとりなさい」と言われた。【４節】

抵抗感を示すペテロ。
「先生、私たちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。
でも・・・お言葉とおり網をおろしてみましょう」」【５節】
これはペテロの人生の大きな転換点、ターニングポイントなった。
一旦自分を置いて、イエス様の言葉に身を置いてみた。すると・・・

そして、そのとおりにすると、たくさんの魚が入り、網は破れそうになった。【６節】
そこで別の舟にいた仲間の者たちに合図をして、助けに来てくれるように頼んだ。彼らがやって来て、
そして魚を両方の舟いっぱいに上げたところ、こそうとも沈みそうになった。【７節】

イエス様が、このような投げかけをペテロにしたのは教えたい事があったから。
みことばを聞くだけでなく、みことばを経験するという事。
ペテロにとって一番馴染みの深い場でこのことをなさった。
ペテロの内心は
網を下ろしたところで結果は分かり切っていると、高をくくった。

◆大漁が望めるかも知れないと期待を膨らますように
思わなかった、思えなかったのは何故か？

◆半信半疑であったペテロ。不十分な従い方であったかもしれない。
しかし、自分の考えを一旦置いて従う方向に一歩進み出た。

◆網にかかった大漁の魚を見たペテロは
「主よ、私のようなものから離れてください。私は罪深い人間ですから」
神のことばを侮った自分を悔いてイエス様の足元に伏した。

イエス様がペテロに言ったのは　「こわがらなくてもよい。」

・責めるためにこの事をしたのではない。
・これからキリストの弟子となるために、最も大切な事を教えたかった。
・みことばを聞くだけでなく、みことばを体験し、御言葉に生きるということ。
・「何も取れなかった」という現実から、「網が魚で一杯になった」という現実を与える神のことばに生きる。それを学ぶため。